

ピースボート災害ボランティアセンター(PBV)

2013年 台風26号大島水害 緊急支援 活動報告書

実施期間 2013年10月30日～11月30日

活動場所 東京都大島町(伊豆大島)

[オフィシャルサイト] <http://pbv.or.jp/>

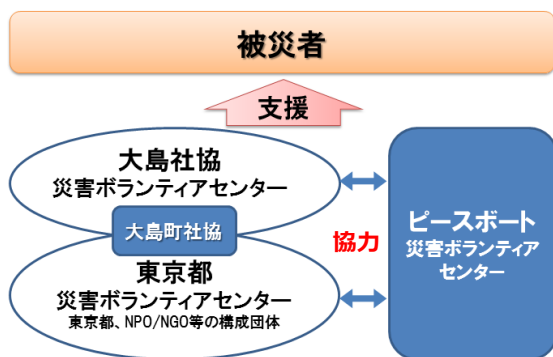
[英語サイト／English site] <http://peaceboat.jp/relief/>

東京都災害ボランティアセンターとの連携

2013年10月16日、台風26号によって関東各地に被害が発生。特に伊豆大島では土砂崩れや河川の氾濫により大規模な被害に見舞われ、多くの死傷者と共に家屋の倒壊や浸水等の被害を出しました。これに対し、ピースポート災害ボランティアセンター(以下、PBV)では、ボランティアの派遣による支援を決定。現地災害ボランティアセンターと協力しながら支援活動を行いました。

今回は東京都が首都直下型地震等を想定し、兼ねてから設置を検討していた「東京都災害ボランティアセンター」が初めて開設され、構成団体である国際協力NGOセンター(JANIC)からの要請の元、PBVでは現地ボランティアセンターへの後方支援や運営のサポート業務を行いました。多くの支援団体と協力・連携することにより、情報収集や拠点の確保等をスムーズに行うことが出来ました。また現地での活動は、ボランティアによる清掃活動と消防や自衛隊等による行方不明者捜索が平行して行われ、緊張感漂う支援活動となると共に、長期化した支援活動は仮設住宅へ住む方々への交流会の開催や、社会福祉協議会が発行する生活情報誌の配布など、支援の内容は多岐に渡りました。

大島社協・東京都災害ボランティアセンターとの連携体制



大島町の被害状況

伊豆大島は東京から120kmの大太平洋上に浮かぶ伊豆諸島最大の島です。豊富な自然資源を生かした観光業が盛んな一方、住民の高齢化や人口減少などの課題を抱えています。

今回の台風26号は、関東地方へ上陸する台風としては10年に一度といわれる大型の勢力をもち、大島町では24時間の雨量が824ミリと観測史上最大を計測。その大雨の影響は伊豆大島の中心にある三原山の中腹を約1kmに渡って崩落させ多くの人的被害を出すと共に、河川の氾濫により家屋への浸水被害など多くの被害を発生させました。



人口	8,321人 (4,814世帯)
死者	36人
行方不明者	3人
浸水家屋(床上・床下)	360棟

プロジェクトの概要

PBVでは10月16日、台風26号により伊豆大島での土砂災害の発生を受け、支援に向けた情報収集を開始しました。しかしながら、その後発生した台風27号の状況を加味し、支援活動中の二次災害予防の為、通過を待ち先遣隊を派遣しました。

被害状況や支援内容の確認、災害ボランティアセンターの運営状況等を調査した後、11月5日からボランティアを派遣し本格的に活動を開始。ボランティアチームによる家屋の清掃を始め、ボランティアリーダーによる個人・団体ボランティアのコーディネート、現地災害ボランティアセンターの運営サポート等、活動は多岐に渡りました。



ボランティア数 派遣人数: **50人** (日別のべ活動人数 **273人**)

土砂のかきだし、清掃実施 **20件**

東京都災害ボランティアセンター 運営サポート **～最終日まで**

(ボランティア応募窓口、大島社協災害ボランティアセンター業務等)

ボランティア参加者の声



今年の夏にリーダートレーニングを受講した後、初めての災害ボランティアへの参加でした。実際に家の中や周囲で清掃などの作業をし、土砂崩れの被害の大きさや作業の大変さを体感しました。また、地元大島の方を含め、ボランティアに参加している方が想像よりも多いことに驚くとともに、それでも人手が足りていない状況も見て取れました。もっと多くの人にボランティア活動に参加してもらうため、今回の経験を周囲の人に伝えることも重要であると感じました。

井川裕介(東京都在住 25歳)



初めての災害ボランティアで、道具の名前も使い方もわからないという中での参加でした。でも、道具の使い方や、やっている作業の意味もちゃんと説明していただけたので、とても安心して作業ができました。ピースポートの方が「災害前より綺麗にしましょう！綺麗になったら諦めてたことも、また頑張ろうって気持ちになるかもしれないんだよ」という言葉に感動しました。今後は大島出身者として恩返し出来るように、私も災害ボランティアについて勉強したいと思います。

名取美沙子(神奈川県在住 30歳)

活動カレンダー

2013年	10月	16日	伊豆大島にて台風26号による土砂災害が発生
		18日	大島社協災害ボランティアセンターが開局、ボランティアの受入開始
		21日	島外からのボランティア受入開始
		25日-26日	台風27号が伊豆大島を通過。島民への非難指示・勧告が発令
		28日	東京都災害ボランティアセンターが設置
		30日	伊豆大島へ向け先遣隊が出発
	11月	3日	ボランティア派遣による緊急支援実施を決定、ボランティア募集を開始
		5日	ボランティアによる瓦礫撤去や清掃活動を開始
		12日	避難所・仮設住宅入居者へ向けた情報誌配布や、サロン活動が開始
		29日	ニーズ終息と共に、島外ボランティアの受付修了の為、派遣を終了
2014年	1月	31日	大島支援 東京都災害ボランティアセンター 中間報告会が開催

大島町からの声

「今度は、植えた花を見に来てほしい」

伊豆大島の元町地区に一人暮らしをされている安部紀代美さん宅は、今回の災害で家屋の損壊こそ免れたものの、100mほど離れた沢から土砂が流入し、床下と大事にしていた庭に土砂が積もってしまいました。園芸が趣味で、たくさんの植木や花、芝生が茂っていた庭は黒い土で埋まってしまい、以前の状態が想像できない程でした。「激しい台風だったが、まさか自分が被害に遭うとは...」と、大きく落胆されたそうです。

心身ともに不安定になり、災害ボランティアセンターに清掃作業を依頼出来るという呼びかけにも「何を依頼していいかわからない」と、当初は依頼を拒んでいたそうです。それでも1人暮らしを心配したボランティアリーダーが度々様子を伺いに顔を出した事により、数日経ってようやく作業を依頼する事になりました。

「本当にこんな大変な事をさせていいのか、とにかく申し訳なかった。敷地全体が土砂に埋まってしまって、もうこの家には住めないと思ってましたし庭で植物を育てるのが日課だったんですが、もうやることはないと思ってたのでそんなに綺麗にしないでいいよって言ってたんです。

その後作業が進み、以前の状態に近づくと同時に徐々に落ち着きを取り戻されたようで、談笑したり、「ここをこうして欲しい」というような希望も伝えてくれるようになりました。作業完了後は「自分のおもっていた以上に床下が綺麗になり、消毒してくれたのでまた安心して住めそうです。庭も整えて下さったので、落ち着いたらまた花を植えたいです。一人で途方にくれていた時に助けて頂いて、ボランティアさんにはいくら感謝してもきれません」という言葉を頂きました。

その後も、参加したボランティアと年賀状や電話のやりとりをして交流が続いているそうです。「この前は清掃を手伝ってくれたボランティアさんから、庭に植えるための花のプレゼントを頂きました。少しずつ庭に花を植えようと思ってるので、みなさんにまた伊豆大島に来て欲しいです」

例え効率よく綺麗になっても「ここに住めない、園芸も出来ない」という気持ちのままでは被災者が抱える問題を解決したとは言えません。その方法は人によって様々ですが、被災者の気持ちに寄り添い、一緒に問題に取り組む人がいるという安心感が被災地においてボランティアが活動する意味だと改めて認識しました。



大島社協災害ボランティアセンター 副センター長 鈴木祐介氏

当社協では発災から2日後の10月18日に災害ボランティアセンターを開設しましたが、その運営は未体験の連続でした。特に「現場調査」「マッチング」「活動現場での効果的な指示」と、災害ボランティアのコーディネートに関して全くノウハウがなかったところ、PBVの皆様には、豊富なご経験を元に貴重なアドバイスを多数いただきました。また、活動全般にわたって非常に統率のとれた団体で、毎日の設営から片付けまでセンターの運営を支えていただきました。

さらに、被災者支援にあたっては寄り添っていく姿勢を。島内ボランティアにはリーダー育成の必要性を。「まず地元ありき」の視点でご活動いただいたところにも深い感銘を受けました。「大島社協災害ボランティアセンター」は当社協に設置されましたが、実態的にはPBV様はじめ多様な主体の集合体として組織・運営できたことが、開設からこの間、大きなトラブルなく軌道に乗せることができた最も大きな要因と考えています。

ご協力いただいた企業・団体（順不同、略称表記）

大島町役場 / 大島町社会福祉協議会 / 東京都災害ボランティアセンター / Share Happiness 倶楽部
/ 国際協力NGOセンター

その他、物資提供やご寄付など、個人の方々からもたくさんのご協力をいただきました。個人情報の観点から、お名前のご紹介は控えさせていただきますが、お一人おひとりの皆様に感謝申し上げます。

収支報告

収入	個人寄付	108,806
	企業寄付	359,350
	合計	468,156

※プロジェクト立ち上げの初動資金には、東京海上日動火災保険(株)の「Share Happiness 倶楽部」からのご寄付を使わせていただきました。

支出	渡航費(フェリー)	62,320
	旅費、交通費	73,099
	消耗品、備品代	90,185
	謝礼、人件費	236,775
	通信費、ほか雑費	5,777
	合計	468,156

活動を振り返って



台風26号大島水害 緊急支援
ボランティア・リーダー
草野 佳孝

宮城県石巻市でのボランティアリーダー経験に加え、直前に参加していた西伊豆町、山口市、滋賀県での経験をきちんと活かせたと思います。主には大島社協災害ボランティアセンターの運営のサポートとして、被災した地区の一部の状況把握を担っていました。地域の方に対しては災害ボランティアセンター自体の周知、どういった事に困っているか聞き取り、ボランティアが作業する場所を事前に確認し、必要な人数、道具の割り出しや安全管理等を行っていました。

一方で、災害ボランティアセンターや活動にあたるボランティアに対しては、単純に作業内容を伝えるだけでなく、地域の状況や課題、住民さんの声、なぜこの作業をするのか、それによりどういった問題を解消できるのか等を出来る限り細かく、正確に伝える事を心がけました。PBVでは毎日振り返りのミーティングを行っていたので、全体状況やより細かなアドバイスをする時間が持てたのが良かったです。

今回、災害ボランティア入門等のトレーニングプログラムを受講し、初めて被災地でのボランティア活動するという方が何人もいました。改めて災害ボランティアに参加した事がない人にとって、大切なきっかけづくりになっている事を感じました。

大島では島内の様々な方がボランティアに参加するだけでなく、豚汁やおにぎり等ボランティアに向けた温かい差し入れを数多く頂きました。他に企業からもボランティアに向けた食料の提供がありました。疲れた体への癒しだけでなく、大島の方と接し、大島の事をお話してもらう機会にもなり、更にはがんばろうという気持ちが湧きました。自分も含め長期的に滞在するボランティアにとっては結果的に負担が軽減され、長期滞在しやすくなり、活動に集中する事が出来ました。本当にありがとうございました。

「サポート会員」になって PBVの運営を支えてください。

東日本大震災への被災者支援・復興支援をはじめ、国内外の自然災害における救援活動の初動資金、災害ボランティアの人材育成プログラムの実施には、PBVの運営に対する継続的な支援が必要です。皆様からの会費は、PBVの運営を財政的に支える基盤になります。

●サポート会員（1年間）

個人 一口 5,000円

団体 一口 100,000円

※二口以上のご協力も可能です。

●会員特典

- ・季刊誌「START」と年次報告書をお送りします。
- ・各種講演会・イベントを優先してご案内いたします。
- ・会員同士の集いの場にご参加いただけます。

●ご協力方法の詳細は

<http://pbv.or.jp/support-member.html>

ピースボート災害ボランティアセンター(PBV)

PBVは、東日本大震災への継続的かつ大規模な支援活動を展開するため、2011年4月に、国際NGO「ピースボート」が設立した一般社団法人です。ピースボートが1983年より行ってきた国際交流の船旅、そして1995年の阪神淡路大震災以降の国内外の災害支援のノウハウとネットワークを活かし活動しています。現在は、宮城県石巻市での復旧・復興支援を中心に、ボランティア・リーダーの育成などにも積極的に取り組んでいます。

ホームページ <http://pbv.or.jp/>

2013年 台風26号大島水害 緊急支援 活動報告書

発行：一般社団法人ピースボート災害ボランティアセンター
編集：垣貫紀彦、上島安裕
発行日：2014年5月2日

この刊行物に関するお問い合わせは下記までお願いします。
〒169-0075東京都新宿区高田馬場3-13-1-2F-A
TEL:03-3363-7967 FAX:03-3362-6073
E-MAIL: kyuen@pbv.or.jp
URL:<http://pbv.or.jp/>